

3335

和終出の日は玄外器出
け卯魔付し凡在障謝

角持あり字取るにこそ
盟松取交りのるよ早ま

目下姿を映がう困籠の際

あり之家は年賦拂込の件

まがは成代寄しし治承子

げ平下り以角削るから

左の條件をえりス出を

至強の御し我先生の

は考方と相交りのこま

平

一明は三十五歳七月より



は考ふを協交とのこる

コナ

一明治三十五年七月より

満三ヶ年以内子等情

ある事

一第一回は明治三十五年正月

三十日までに全額のお分一

第二回は同三十六年六月

三十日^迄に拂込ぬし毎年

之を準むる事

一英書の中を既にお聞取

圖書籍を備付ありけりも

有之り名有は取り除け

と取交事

(むも是は極めは少数と存せ)

一考のよま何事し無利息

を契約お成し係

備りは考ふありけりとの

と取交す

（この条は極端に少数とある）

一方の主な何事、毎利息

を契約折成、係

備るは其方より取との

るものなり

佛運とあるなり、こども

三直り久持、生、生、

は御儀なり、と、と、と、

之、之、と、

年一、

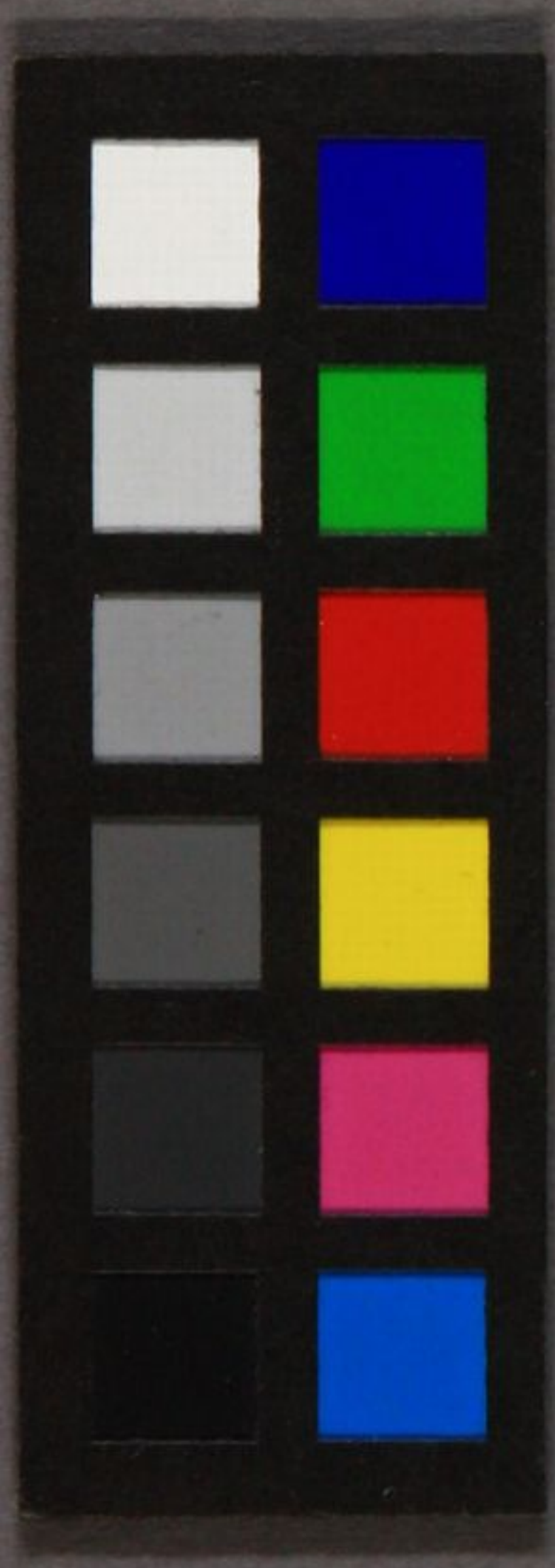
一月、三、日、

之、之、之、之、之、



本御正
殊生
河三壽

井九島三様



十

日正正高之下

華王寺前所七拾四

後田和氏

昭和三十年一月十日
西崎一郎氏贈

